

地域懇談会等の町民の意見について（結果報告）

1. 地域懇談会

実施日	<p>令和2年9月26日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北部地域 午前10時00分～午前11時10分 ・ 中部地域 午後1時30分～午後3時10分 ・ 南部地域 午後5時00分～午後6時20分
内 容	<p>地域別構想に従い、北部地域・中部地域・南部地域の3地域ごとに1回ずつ計3回実施した。素案の説明し、参加者と意見交換した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北部地域 北部交流センター 11名参加 ・ 中部地域 ふれあい交流センター 9名参加 ・ 南部地域 B&G海洋センター 5名参加 計25名参加
主な意見	<p>北部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農地や山林の維持管理が大変である。若者は農業の経験がない中で、農地の保全是良いが、耕作する人がいなくなる。 ・ 高齢者の買い物や通院の移動手段が今後の課題となると思う。 ・ 北部にも観光的視点を持ってほしい。 ・ 七郷小が統廃合によりなくなり、魅力がなくなってしまう。 ・ 花見台工業団地が整備され、工業団地に勤務者が北部に住むと思ったが住まなかった。労働や居住人口の部分で工業団地が地域に貢献できていない。 <p>中部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市マス策定後の進捗は、どのように管理していくのか。 ・ 第2次都市マスの方針で掲げている事柄を実施しなかった場合、どのようになるのか。 ・ 高齢化が進む中で、高齢者が安全安心して歩ける歩道整備をしてほしい。 ・ 中部地域の中で唯一志賀1区は農業従事者がいる。農地は保全していきたいが、雑草等の維持管理が大変である。 ・ 太陽光発電施設は、森林を伐採してまでやる必要があるのか。町全体で緑を保全できるような条例等の規制はできないのか。 <p>南部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業従事者が高齢化し、農地の維持管理が大変である。 ・ 観光拠点の20年後は、どのようなイメージなのか。 ・ 観光拠点に遠山が入っている。BBQ等の観光客のごみを地区のごみステーション等に捨てていくので住民は困っている。対策等を踏まえて観光拠点を考えてほしい。 ・ 大蔵神社は地区で維持管理している。保全というのは簡単だが、維持管理にお金がかかり大変である。 ・ 花見台工業団地で、町の雇用は増えたのか。

2. 区長からの意見

実施日	令和2年9月23日(水)～10月16日(金)
内容	<p>区長に地域懇談会の資料を配布して意見を求めた。なお、地域懇談会に参加いただいた区長の皆様からは、地域懇談会の中でご意見をいただいている。</p> <p>・意見提出 2件 ※地域懇談会に参加した区長 15名</p>
主な意見	<p>北部地域</p> <p>[今考えられる北部地域の問題点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が生活をしていくために必要な施設、その中の郵便局・診療所・病院が既に消え、農協・小中学校が消えようとしている。 ・地区の基幹産業であった養蚕は30～40年前に消え、稲作も一握りの世帯を除いて大半は営農集団に作業の付託しているのが実情である。 ・畑作は多くの世帯で自家消費分を高齢者が作付け、大半の畑は保全地という名の耕作放棄地である。自家消費分を作付けしている人々の後継世代の多くは、勤務地の近く等に住居を構え、将来的には生活基盤を嵐山町に戻すことは考えづらい。 ・20年後の北部地域の世帯数は、現在の2～3割になることも考えられる。 ・このような状況では北部地域の魅力を表す、緑に囲まれた豊かな田園風景の中での生活を維持していくことは難しい。 <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲作や畑作は、企業への委託や地権者からの土地の無償提供、農地の集約化、大型農業機器の提供、一定期間の補助金の支給、住居の無償提供等で町内外問わず若い世代の就農を図る。 ・谷津田は、当該地権者や地区住民・行政が一体となり保全組織を立ち上げ、付加価値の見込める谷津田の風景を創り上げ、その維持管理に努める。 ・廃校になる校舎の改修し、地域集合住宅として後継者のいない世帯には宅地・農地等を提供のうえ代替移住をしてもらい、行政サービス経費削減を図る。 ・嵐山小川 IC 付近を一体的にした大規模開発造成工事を行い、企業誘致を図る。 ・現在の施策を継続し、今の準限界集落の状態から限界集落、そして消滅集落への移行を見守る。この自虐的な提案が、環境整備・都市計画を行政・地域が一体となり遂行することにより打破され、20年後には今の状況が改善されていることを願う。 <p>南部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光駐車場が開設されたこともあり、春・夏・秋の休日には満車になるほど来場者がいる。ハイキングやサイクリングの人たちも多く見かける。地域にお金を落とさず、ゴミだけ残していく。 ・田畑は、所有者が栽培しているところは少なく、有機農業者に貸しているか、耕作放棄地となっている。耕作放棄地を整備して、市民農園として貸し出すことも考えられる。 ・観光地として考えると、槻川沿いの生活道路脇に楓等の紅葉樹の植栽、道路沿いに芝桜の植栽を行い、芝桜街道等を考える。

3. その他の意見

実施日	令和2年10月12日(月)～10月25日(日) 14日間
実施方法	<p>(1) パネル展示等</p> <p>ポスター(A1)を掲示し、その場で素案に対する意見を記入・投函できる場所を設置した。</p> <p>〔設置場所〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設：8施設、商業施設：1施設 <p>嵐山町役場、武蔵嵐山駅、ふれあい交流センター、北部交流センター、図書館 B&G 海洋センター、やすらぎ、社会福祉協議会、ベイシアフードセンター嵐山店</p> <p>※ポスター(A3)掲示のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業施設：2施設 ヤオコー嵐山バイパス店、カインズ嵐山店 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>ベイシアフードセンター嵐山店(中央入口)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>武蔵嵐山駅 嵐なび出入口(改札正面)</p> </div> </div> <p>(2) 公式ホームページ・公式ツイッター</p> <p>公式ホームページに素案に対する意見について掲載し周知した。</p> <p>また、公式ツイッターに公式ホームページで素案に対する意見の掲載について投稿し周知した。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症予防による町民の暮らしに関するアンケート調査</p> <p>都市計画マスタープランの策定にあたり、新型コロナウイルス感染症によって、暮らしへの影響や不安・困りごとを把握するため、アンケート調査を実施した。</p> <p>詳細は、資料3を参照とする。</p>

<p>意見(11名) ※原文のまま記載</p>	<p>北部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70歳代男性(杉山) 観光資源の活用。高齢化対策(高齢者の活用)。
	<p>中部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40歳代女性(菅谷) ラベンダーもそうだが、もっと長い目で見て収入(収益)が見込める事業の展開。団地内の空き家の有効活用。西口がさびしい。開発等考えがあるかと思うが、コンビニがなかったりするのでは、ほしい。 ・70歳代女性(菅谷) 高齢化が進み地域の活動に支障あり。 ・60歳代男性(川島) 人口減少対応早急に。 ・60歳代男性(志賀2区) 空き家・空き地の整備(撤去、草刈)。 ・60歳代女性(むさし台) 空き家や空き地が増加するので活用すべき。 ・50歳代男性(平澤) 駅前に商店があるべきだ。居酒屋だけは意味ない。 ・70歳代男性(平澤) 土地に対する考え方の変化を感じている。
	<p>南部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80歳以上男性(鎌形) 空き家を利用すべき。
	<p>地域不明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60歳代女性(町内) 職がなくなりニートの増加対策。町の施策が見えない。今後の町の有り方(町民の為には何が必要か考える。) ・70歳代男性(未回答) 農地をもっと活用すべき、してもらいたい。